



《将来に向けた取組方針》

- 資源循環の推進を行うとともに、非常時に備える。
基幹事業である廃棄物処理において、まずは可能な限り再資源化を行うことで地球資源の枯渇を抑制。また大規模な埋立処分場を保有することで、災害等の非常時に備えていきます。
- 長期的視点に立った多様な森づくりを行う。
全国の社有林を核とした林業経営を通じて、森林が有する木材生産、防災、生物多様性、温室効果ガス削減、景観などの全ての機能が同時に高まるような森づくりを行います。
- 再生可能エネルギーの創出を高める。
廃棄物と木質資源の混焼によるバイオマス発電や太陽光発電など、再生可能エネルギーの創出・活用を行うことで、地球温暖化防止対策に取り組みます。

《具体的取組み事例》

・食品リサイクルループ

2014年より始まった食品リサイクルループは、イオングループ各店舗から排出される食品残さを発酵、堆肥化し、隣接するイオン直営の農場へ供給。収穫した農産物をイオン店舗で販売する資源循環の取り組みです。

2016年には、一般財団法人「日本土壤協会」の「食品リサイクル肥料」認証を取得。さらに有機 JAS 資材にも登録されたことにより、農産物に「有機農産物」「オーガニック」などの表示ができるようになりました。

・三重県大台町 自然林再生

三重県大台町の社有林で2011年の台風災害により発生した大規模な山崩れ跡地では、三重県による災害復旧工事が進行中である一方、グループでも地域住民、宮川森林組合、三重県松阪農林事務所と協働し、学識経験者の指導のもと「自然配植（地域性苗木の育成から取り組む自然に近い森づくりの技術）」による森林再生プロジェクトを2016年に開始しました。これまでに苗木づくりと試験植栽を実施し、2020年度から植栽を開始、2022年度に完了する計画です。一連のプログラムではグループ従業員も勉強会、種採り、苗木づくりなどに参加。多様な森づくりのための作業を通じて、生物多様性への意識向上を図っています。



《今後の課題等》

- ・メタン発酵ガス発電の実用化によるエネルギーの創出。

家庭から出る生ごみや食品残さなど、水分を多く含む有機性廃棄物からメタン菌の働きによるメタン発酵で、バイオガスを取り出すという技術があります。そのガスをガスエンジン発電の燃料として利用するほか、発酵施設をガスステーションにし、自動車燃料などとして循環供給するシステムの構築に取り組んでいます。さらに、ガスを取り出した後に残る発酵残さを施設内で堆肥化し、農場に供給することで、無駄のない理想的な循環システムが完成すると考えており、現在はその施設の建設に着手している状況です。

